UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会
報告書

■開催日　　2021 年 6 月 19 日（土）

■会場　　リモート開催　運営本部　茨城県水戸市　ウエストヒルズホテル 3F 桜の間

■「大会テーマ」

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

◎第一分科会テーマ　こんな時代だけど「どうする？」　活動報告
◎第二分科会テーマ　こんな時代だけど「共有しよう」　BEN-TO と 建築
◎第三分科会テーマ　こんな時代だけど「前へ進もう」　ＶＲ技術と建築・社会

■大会実施行程　大会実施行程 6 月 19 日（土）の 1 日間

■対象　　関東甲信越建築士会ブロック会に所属する青年建築士
（全国の建築士会に所属する青年建築士等も参加可）

■参加人数　　500 名（茨城スタッフ含む）

■参加来賓

水戸市長	高橋　靖	様
（公社）日本建築士会連合会　会長	近角 眞一	様
（公社）日本建築士会連合会　青年委員長	稲見 公介	様
長野県建築士会　会長	荻原　白	様
新潟県建築士会　会長	田中　隆司	様
千葉県建築士会　会長	竹江　文章	様
東京建築士会　会長	古谷　誠章	様
群馬建築士会　会長	田仲　豊	様
山梨県建築士会　会長	雨宮　健一	様
神奈川県建築士会　会長	上原　伸一	様
栃木県建築士会　会長	柴田　道夫	様
埼玉建築士会　会長	江口　満志	様
茨城県建築士会　会長	柴　和伸	様

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会
茨　城　大　会

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会

全体会議（式典）　報告書

新潟県建築士会　平山　貴士

関ブロ茨城大会は例年と異なり Zoom や、YouTube Live を使ってのリモート配信をする形での開催となった。茨城大会は新型コロナウイルスによる社会的影響が大きく、現地に会員を集めて開催できないとの理由から関ブロ大会を辞める(UN)ではなく、新しい形でやる(DO)という趣旨の大会であった。開会に先立ち開催地である水戸での司会者の紹介、水戸市長の挨拶から始まり、大会の開幕となった。

第１分科会、第２分科会、第３分科会が１日で行われ、最後に全体会議と各分科会の結果発表が行われた。例年と異なり大懇親会やエクスカーションはプログラムに無かったが、初めての試みであるオールリモート配信による関ブロ青年大会であった。

また、配信会場からのライブ感ある配信と、事前に録画された動画を組み合わせる事で、参加者は見ているだけではなく参加している雰囲気が出る配信であった。

来年度の長野大会の紹介が長野大会実行委員長の高柳理事により行われ、今大会の実行委員長である櫻井理事の挨拶により閉幕を迎えた。

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会

茨　城　大　会

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会

第１分科会　報告書

埼玉建築士会　島田義信

第１分科会は、各都県の活動報告が主となっており、少しでも多くの方に参加していただき素晴らしい発表内容を聞いていただく、また自都県での活動の参考にと願って例年開催されております。

今大会のテーマは「UN→DO と建築」です。2020 年初頭より世界中で猛威を振るっているコロナウィルスの影響下においてこれまで、直面したことのない状況にあります。社会的な閉塞感や、先の見えない状況に置かれた今、「でどうするのか」という所を我々建築士が考えていきたいという想いのなか、感染拡大防止の観点から、参加者は集まることはなく、YouTube や Zoom を利用した、オンライン配信を用いた形で開催されました。事前収録だからこそできる趣向に凝った動画は、今まで以上に人の心を惹きつけ印象に残るプレゼンテーションでした。評価方法は参加者が「自分の都県に持ち帰ってやってみたい」という観点で特に、期待感、将来性のある提案への評価をし、YouTube の「グッド」の数で競われました。結果、「グッド」の数の多い順に金メダルは長野県、銀メダルは同票で新潟県と山梨県ということでしたが、多様な活動内容は、各都県に持ち帰るにあたりメダルの色に関係なく各都県の活動の参考になったのかと考えています。

発表内容に関しては全体として、大きく二つの活動の方向性がみられました。一つ目は、学生や子供向けの活動で将来の建築士を育て建築に興味もってもらう活動です。二つ目は、コロナ禍でも積極的な活動を行う屋外開催やリモート開催の活動です。

一つ目の方向性としては高校生に焦点をしぼった東京都の活動は特筆すべき活動です。高校生へ向けたワークショップは子供向けの視点とは異なった、現実的で具体的なテーマの内容、そして受験予備校とのコラボレーションなど多くの新しいチャレンジされた事業と考えられます。二つ目の方向性としてはコロナ禍でも活動可能な屋外活動という観点で神奈川県の「フォトロゲ」も特筆すべき活動です。屋外の活動でスポットを巡りながらゲーム性をもたせエリアの建築に興味をもたせ、かつ、建築士会の活動を知ってもらう内容でした。前回大会の発表でも「フォトロゲ」でした。時間をかけ、とても綿密な事前の資料づくりも大切だと感じました。コロナ禍でなくとも、各都県で持ち帰ってもらうことも可能だと考えます。その他、地方活性化が叫ばれるなか新潟県の学生を地域の会社へ就職斡旋する活動は、地域で活躍できる人材を育て建築業界を盛り上げる観点からとても大切な活動だと考えられます。コロナ感染拡大防止を踏まえ、継続して活動できることも良いことだと考えます。

最後に、準備や運営にご尽力いただきました茨城県建築士会の皆様に感謝申し上げるとともに、参加者の皆様が各建築士会の多様な活動を把握し、発展的な未来の建築士会の活動を考えることを願い報告とさせていただきます。

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会

茨　城　大　会

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会

第２分科会　報告書

栃木建築士会　安藤 崇之

第二分科会は、コロナ禍の社会情勢において行動が制限されているなか、「他県の取り組みを自県に持ち帰る」ことを目標として、他県を知るという点に着目した映像作品での開催となりました。お昼時間のプログラムという事もあり、「食」と「建築」を組み合わせた「ＢＥＮ→ＴＯと建築」という題目で、各都県の魅力的な食と建築が紹介され、コロナウィルス感染症収束後の各都県への訪問意欲を強く掻き立てられる内容でした。

各都県のこれぞというご当地の「食」と「建築」を組み合わせた７分間の番組により、10 都県をめぐる旅を疑似体験することが出来ました。TV 番組さながらのリポートやカメラワーク、編集まで、初めての WEB 開催と思えないほどのクオリティで、まるで旅番組を見ているような感覚でした。

各都県の歴史的建築物や近代建築、新建築に加えて、リノベーション建築や観光名所といった新旧さまざまな建築物の紹介とご当地グルメや名産を使用したお弁当などのローカルな情報が満載でした。各都県が設定したタイトルに沿って「食」と「建築」を紹介してくれましたが、支部毎に紹介を行った県もあり、県を代表するような建築や有名なお弁当だけでなく、支部毎の魅力を知る事が出来ました。

それぞれ、別のものととらえていた「食」と「建築」ですが、第二分科会の映像を通して、両者のつながりを強く感じる場面もあり、新たな視点で建築を考える良い機会となりました。

まだまだ、コロナウィルス感染症の収束が見えない状況ではありますが、以前のように気軽に県をまたいだ移動が可能になりましたら、是非、直接現地に足を運んで今回紹介された魅力的なご当地の「食」と「建築」を楽しんで頂きたいと思います。

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会

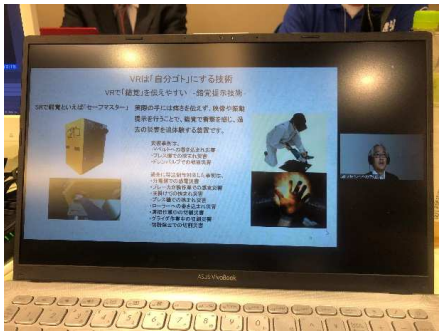
茨　城　大　会

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会

第３分科会　報告書

長野県建築士会　清水麗嘉



第３分科会は、関ブロ青年協企画としてブロック活動創造部会を中心に企画・準備を行い、『ＶＲと我々の生活環境との関わり合い』について幅広く学べる場となりました。

新型コロナウィルスにより、昨今、働き方や人との接し方の変革が求められ、リモート会議や遠隔指示を導入する中、バーチャル空間ＶＲが実用的なツールの一つとして注目されています。

講師には日本バーチャルリアリティー学会理事でもある株式会社ソリッドレイ研究所の今村伊知郎先生を迎え、前半は講演を、後半はパネルディスカッションを行いました。

講演では、ＶＲとはどのような技術なのか、ＶＲの構成要素とは何か、という基本的な内容をはじめ、ＶＲ技術が役立てることの出来る事例として、①災害対応訓練とＶＲ②不動産テックとＶＲ③運動とＶＲ④合意形成⑤音のＶＲ、を主なテーマとして、ＶＲ技術が現時点で出来ること、苦手なことなどを多くの実施例と合わせて分かり易く説明して頂きました。結局のところ、「ＶＲ技術の向上」とは「人間を知ろう」に行き着くというお話は印象的でした。

パネルディスカッションでは、株式会社コンピュータシステム研究所の坂井俊雄先生と茨城県東海村役場の近藤康範様にもゲスト参加して頂き、建築実務の観点から今後の展望などについて意見の交換をして頂きました。ＶＲの成り立ち、データの種類の違い、ＣＡＤとＶＲと現場、それぞれのデータなどを具体的なプレゼンソフトを例に紹介して頂くと共に、「せっかく３Ｄで検討しても最後は２Ｄ図面」「２Ｄの良いところを残しつつ３Ｄ活用は思いのほか鈍い」「ＶＲはあくまでプレゼンツールの先にあるもの」など実務者としての意見を交わされていました。より現場に役立つＶＲ技術をどのようなサービスに仕上げていくか？ＶＲの要素技術である３Ｄの現場での活用にはまだまだ進化の必要があるようです。最後に今村先生より建築士に望むこととして、「こういったＶＲが欲しい」と言って欲しいとの要望も頂きました。

今回約 120～130 名の方が Youtube で視聴参加頂きました。リモートでは伝えきれない部分もあり、例年のような開催であれば、現地でＶＲを体験して頂きたかったところですが、リモートで出来る限りのことはお伝え出来たかと思います。今後、参加された方の仕事や生活に於いて、この講演が活かされ役に立つ時が来ることを願います。

最後にご協力を頂きました講師の先生、ディスカッションに参加頂きました皆様、準備や運営にご尽力頂いた茨城建築士会の皆様、無事開催出来ましたことを感謝申し上げます。

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会

茨　城　大　会

UN→DOと建築
UNDO AND ARCHITECTURE

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　茨城大会
参加者一覧

	人数
長野県建築士会	80 名
新潟県建築士会	69 名
千葉県建築士会	93 名
東京建築士会	36 名
群馬建築士会	27 名
山梨県建築士会	28 名
神奈川県建築士会	19 名
栃木県建築士会	17 名
埼玉建築士会	80 名
茨城県建築士会	43 名
日本建築士会連合会	8 名
合計	500 名

2021年　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会
茨　城　大　会

（確認事項）令和３年６月 18 日

令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会　活動指針

関東甲信越建築士会ブロック会
青　年　建　築　士　協　議　会
会　長　　長　坂　　治

●はじめに

関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会（以下関ブロ青年協）の活動指針を周到し、未来を見据えた運営のあり方を模索していきます。

●関ブロ青年協の位置づけ

関ブロ青年協は文字通り青年建築士の１０都県の協議会です。そのため各都県の活動の情報共有をし、協議を行う事を主としながら、そこから自都県に有益な情報を持ち帰り、活かし各々の単位士会の活性化を目的とするものと考えます。またブロック協議会として共通課題・問題・展望を見出し、同じベクトルに向いて解決・創出していく事業の企画・実施を行います。その為に関ブロ青年協理事は各都県からの代表として出向している認識の元、自覚を持ち、橋渡しの役を担いながらブロック全体の活性化に努めるものと考えます。

●関ブロ青年協ブロック大会について

関東甲信越ブロック圏の青年建築士へ向け、建築士としての発展に寄与する情報共有・成果発表・意見交換の場として関ブロ青年協主催、開催県士会主管の元、計画実施します。ブロック大会計画に当たっては開催県とよく協議を行い、詳細にいたるまで理事会での承認を行い、状況を鑑みながら主催者側として運営をサポートし、大会の成功を目指して参ります。

●今年度の運営について

<u>①３部会の設置について</u>

今年度も運営組織に加え、理事会とは別に３部会を設置します。関ブロ青年協はブロック大会時の理事会を除き、年２回定例理事会+臨時理事会で規定されています。最終的な活動成果の場であるブロック大会を見据え、ブロック活動の活性化を図るため、ＷＥＢ会議等で１年間の中で協議を行う場を増やすとともに、主体となる３部会の役割を定め、理事メンバーで共有・協議を重ね、意見を交わし、限りある理事会で有効な協議・決議ができるように努めます。例年の執行部会議のメンバーで協議してから、全理事に提案するケースも、必要に応じて設けていきたいと思います。

<u>②企画書及び議事録と確認書類</u>

理事の皆様から頂いた企画書や各会議の議事録、それに応じた確認書類は、意思疎通の円滑化には欠かせないものといえます。

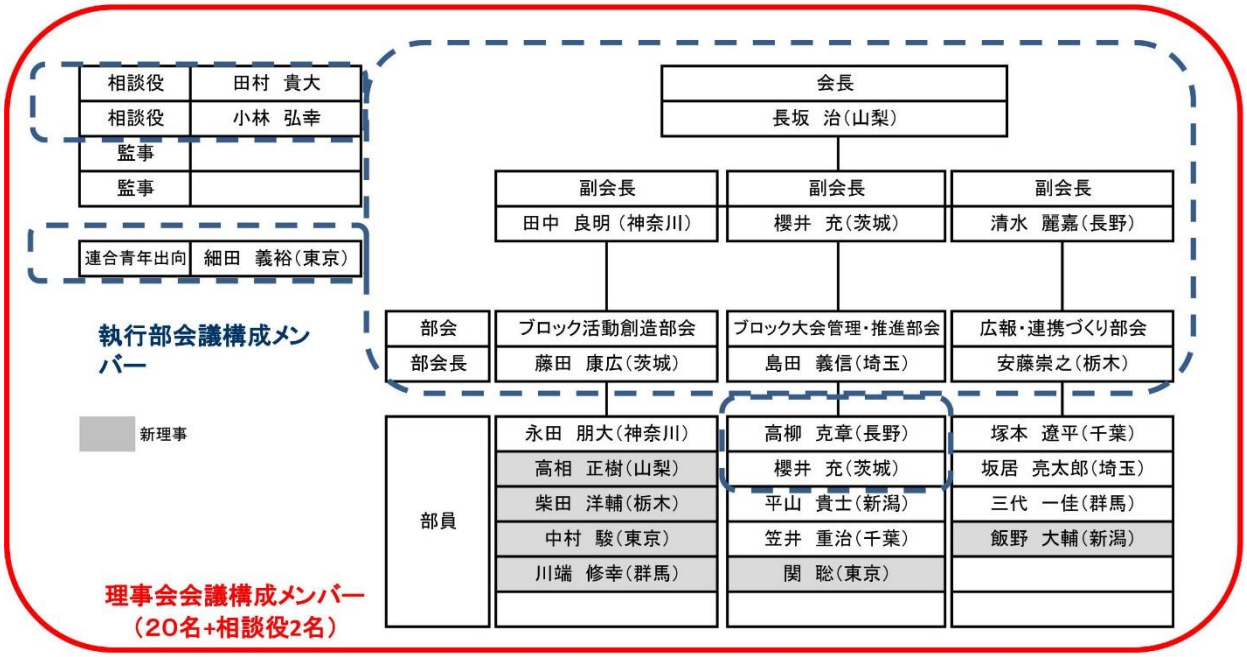
議事録については、記事録担当者が責任を持って、会議後早急に提出、参加者の確認までを２週間ほどで終えられるように、担当者個人に無理が行かないよう、分担して実施するものとさせていただきます。確認書類は、未回答などでの停滞を防ぐもので、書面で明示が必須というわけではありませんが、未回答の対象者を想っての積極的な対話を前提とし、相手を想って控えることでの停滞することを減らしていきたいと思います。

●その他

ブロック内での連合会全国大会青年委員会プログラム（Ｒ４秋田大会）への代表発表者選出・協力

上記内容を踏まえ、ブロック内のネットワークを活かし、他ブロックや親会・連合会との連携を図りながら理事会の交流・協働・活性化を目指したいと考えます。

令和3年度　関東甲信越建築士会ブロック会　青年建築士協議会　組織表



令和３年度　関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会　活動報告

１．青年協理事会開催

第１回　日時:令和３年６月 18 日 20:30～21:15 水戸ウエストヒルズホテル桜の間及びオンライン
主たる議題:役員選任、令和３年度基本方針説明

第２回　日時:令和３年９月 21 日 19:00～21:00 オンライン（第３回と合わせての議事内容）
第３回　日時:令和３年 10 月 19 日 19:00～21:00 オンライン
主たる議事:①茨城大会開催報告　②長野大会実施協議（各分科会について）
③各部会活動状況報告　④各都県青年委員会事業計画及び活動報告

第４回　日時:令和４年２月２日 19:30～21:50 オンライン（第５回と合わせての議事内容）
主たる議題:①長野大会実施開催案、予算案承認　②令和５年度新潟大会テーマ承認
②各都県青年委員会事業計画及び活動報告　④各部会活動状況報告
第５回　日時:令和４年３月 14 日 19:30～20:30 オンライン
主たる議題:会長副会長選考の内規改正、会長及び副会長の承認
※その他随時、各部会のオンライン会議や ML 及び LINE グループでの協議を実施

２．各部会活動報告

①ブロック大会管理・推進部会

・長野大会開催県との連携を強化し、島田部会長を中心に判断の分岐点を見据え１、２ヶ月ごとに部会を開催、進行状況の確認及実行委員長経験者などからのフォローアップなどを行いました。

②ブロック活動創造部会

・長野大会第３分科会　記念対談「魅力的な地域をつくりだす事業とマネジメント」、タウンマネージャーの國廣純子氏と上田嘉通氏をお招きし、事例を元に、私たちが地域で何をすべきか、何を目指すべきか考える機会を設けました。藤田部会長を中心に、企画立案、構成調整から実施までの調整などを行いました。

③広報・連携づくり部会

・関ブロ青年協の Facebook ページを軸に広報活動、定期的に情報を提供するために、各都県ごとの役割を確認し実行しました。
・情報共有を行ってきた Google Drive の容量が増えてきたことから役割を再確認し、過去の資料は TeraBox へ、当該年度ごとに新 Google Drive へ移行しました。安藤部会長を中心に、部会にて広報・連携のあり方を協議し整理を行いました。

３．企画書及び議事録と確認書類等の取り組み及び各連携

・１及び２の内容でも受け取れると思いますが、目指していた意思疎通の円滑化は、定めた予定を前倒しして積極的に、取り組むことにつながり、補い合うことで、全体として停滞なく、連携の幅も広げた理事会年度とすることが出来たと思います。各位ご協力感謝申し上げます。
・連合会全国大会青年委員会プログラム（R4 秋田大会）への代表発表者選出・協力では、ブロック選出以外にも自薦による発表も取り入れる改良に応え、関ブロから積極的に出場することができました。当日発表の２都県は共に関ブロから（長野・神奈川）、他ブロックや親会・連合会との連携について実行することができました。